

協会に事務局を置く団体

神奈川県消化器がん検診機関 一次検診連絡協議会

((旧)神奈川県消化器集団検診機関一次検診連絡協議会)

本協議会は老人保健法施行に伴い昭和57年2月、日本胃腸検診学会(現:日本消化器がん検診学会)関東甲信越地方会実施機関部会において各県単位に「協議の場」を設置する申し合せにより発足し、28年が経過した。

発足以来、県内における老人保健法に基づく胃がんの住民検診を行う一次検診実施機関の精度管理の向上、行政、医師会をはじめとする関係機関との連携協調を図り、共通の諸問題の研究、技術の向上を目指して討議を行い、胃がん検診の充実、発展を図ってきた。当協会は発足当初より事務局を引き受けている。

平成22年度は、根拠法や学会名の変更を反映させる形で規約を改正するとともに、本協議会の名称を「神奈川県消化器集団検診機関一次検診連絡協議会」から「神奈川県消化器がん検診機関一次検診連絡協議会」に変更した。

1. 協議会の開催

- (1) 第70回協議会 平成22年6月28日(月)
(2) 第71回協議会 平成23年1月21日(金)

2. 幹事会の開催

- (1) 第88回幹事会 平成22年6月14日(月)
(2) 第89回幹事会 平成22年6月28日(月)
(3) 第90回幹事会 平成22年12月6日(月)

3. 研修会

日 時:平成23年1月21日(金)

テーマ:「受診率向上のためのX線と内視鏡のあり方」

講 師:横浜栄共済病院 細川 治 先生

4. 技術部会

- (1) 第1回 平成22年5月19日(水)
(2) 第2回 平成22年8月18日(水)
(3) 第3回 平成22年11月17日(水)
(4) 第4回 平成23年2月16日(水)

5. 講習会(がん検診X線撮影従事者講習)

日 時:平成23年1月20日(木)

主 催:神奈川県 *共催機関として協力

神奈川県消化器がん検診機関

一次検診連絡協議会名簿

	会 長	今村 清子
横浜市立市民病院がん検診センター	検診担当部長	石山 暁
川崎市立井田病院がんセンター		佐藤 康明
(財)逗葉地域医療センター	施設長	丹波 靖
(医)松英会	理事長	寺門 運雄
(財)京浜保健衛生協会	理事長	矢作 淳
(医)倉田会 メディカルサポートクリニック	院長	宗像 覚
神奈川県厚生農業協同組合連合会 保健福祉センター	センター長	中安 邦夫
(財)神奈川県労働衛生福祉協会	会 長	西平 浩一
(財)結核予防会神奈川県支部	専務理事	磯村 共庸
(財)神奈川県予防医学協会	理事長	土屋 尚
厚木市立病院	院 長	山本 裕康
(医)社団相和会産業健診センター	理事長	土屋 章
(医)藤順会藤沢総合健診センター	理事長	石井 敏和

相談機関

日本消化器がん検診学会		今村 清子
神奈川県保健福祉局保健医療部健康増進課	課 長	石川 信之
神奈川県医師会	理 事	石井 出
神奈川県医師会	理 事	羽鳥 裕
		平成23年8月1日現在 (事務局 新保 文樹)

神奈川県消化器内視鏡技師研究会

本研究会は、県下の消化器内視鏡技師もしくは、その仕事に携わる人々を対象にお互いの知識・技術の向上をめざし、日常業務の質の向上を図る目的で設立され活動を行っている。

今年度は、聖マリアンナ医科大学 消化器・肝臓内科 安田 宏教授に世話人をお願いし、下記の通り行われた。

第30回神奈川県消化器内視鏡技師研究会

日 時 平成22年4月25日(日)
会 場 (財)横浜市教育会館
世 話 人 聖マリアンナ医科大学
消化器・肝臓内科 安田 宏
技師世話人 内視鏡センター 片野早江子
内 容

消化器内視鏡機器取り扱い講習会

一般演題 3題

特別講演 カプセル内視鏡(CE)の実際

パネルディスカッション

大腸内視鏡検査前処置の現状と問題点

入 場 者 465名

「特別講演」では神奈川県技師会では初めて、カプセル内視鏡の実際を 昭和大学藤が丘病院 消化器内科 准教授 遠藤 豊先生にお話を頂いた。

多くの画像を交え、情報量の多さとそのメリット・デメリット。現時点でのカプセル内視鏡に関する問題点等分かりやすい講演を受ける事が出来た。

パネルディスカッションでは、何度か取り上げている題材ではあるが、検査精度アップと受診者苦痛緩和のために、各施設で検討改善が繰り返されている前処置方法が発表され、活発なディスカッションが展開された。

顧 問 (五十音順)

青木 誠孝	青木医院
比企 能樹	北里大学病院名誉教授
西元時克禮	北里大学病院名誉教授
藤田 力也	昭和大学藤が丘病院名誉教授
山川 達郎	帝京大学溝口病院
小泉 博義	藤沢湘南台病院
南 康平	丹羽病院

役 員

青地 広美	横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター
片野早江子	聖マリアンナ医科大学病院
佐藤 和夫	神奈川県労働福祉協会
佐伯 美奈	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
鈴木 瑞穂	松島クリニック
瀬戸 道雄	青木医院
谷合 幸乃	横浜市こども青年局
高木ちなつ	藤沢湘南台病院
中村 深雪	横浜市民病院
納所けい子	神奈川県予防医学協会
花木由香里	村松内科胃腸科クリニック
平井 弘子	東名厚木病院
藤田 賢一	帝京大学溝口病院
藤森 弘樹	昭和大学藤が丘病院
星野 朱美	横須賀共済病院
松橋 妙子	国際親善総合病院
三浦 美保	北里大学東病院
武藤美枝子	東海大学病院
渡部 博一	川崎幸病院

(事務局 納所 けい子)

子宮がん車検診実施検討会

子宮がん車検診検討会は、精度管理向上を目的とし昭和46年度に開会させました。

検診車による子宮がん検診は、昭和43年度から開始され、県下市町村から依頼事業として当協会が配車し、細胞診断と結果報告を担当している。検診に協力していただいている県内の北里大学・東海大学横浜市立大学・聖マリアンナ医科大学・日本医科大学武蔵小杉病院・相模野病院の産婦人科の医師及び県立がんセンター婦人科腫瘍専門医師と車検診のデータの検証と、発見症例の再検鏡や再検診・検討を実施し精度管理の維持向上に役立てると共に、検診の実務上必要な情報交換を実施・検討しております。

またこの検討会にあわせて、県産科婦人科医会の代表医師に対し報告会を開催し報告しております。更にこれらのデータは学会にも報告され、全国の子宮がん車検診の精度管理向上に活用されております。細胞診判定法が平成21年4月より日母分類よりベセスダシステムに改定された。

数年にわたり採取器具について協議が行なわれてきましたが、ベセスダシステムに対応するため採取器具の変更を実施した。(綿棒からサーベックスブラシコンビ)

(事務局 稲葉 稔明)

神奈川県乳がん集団検診協力医療機関連絡会

県域の乳がん集団検診は昭和52年度から開始されています。53年度以降は県が実施主体となっており、「神奈川県乳がん集団検診協議会」の技術指導のもとに神奈川県予防医学協会が委託を受け実施いたしました。

その後、昭和60年度に乳がん検診が老人保健法に加わり、実施主体が市町村に変わったのを契機に、神奈川県予防医学協会を事務局として「乳がん集団検診協力医療機関連絡会(現会長 福田護(聖マリアンナ医科大学乳腺・内分泌外科教授))」が発足し、上記協議会を引き継ぎ、検診の実務が逐行されています。

同連絡会は「県生活習慣病検診管理指導協議会乳がん分科会(会長 福田護(同上)、事務局県保健福祉局)」の指導のもと検診精度管理面の検討と、検診の円滑かつ効果的な運営を図るため設置運営されています。

また、同連絡会は年に1回全体の協議会を開催し、集団検診ならびに追跡調査の状況を報告し精度管理のチェックをすると共に、検診の実務上必要な情報交換を実施し、また厚生労働省の視触診の指針に基づく技術協力を各医療機関に要請しております。

そして追跡調査の結果は毎年連絡会の医療機関の代表が「日本乳癌検診学会」に報告し、全国における神奈川の検診実態把握と精度向上に努めています。

会 員 (敬称略：順不同・平成23年8月1日現在)
 会長 聖マリアンナ医科大学附属研究所プレスト&イメージング先端医療センター附属クリニック
 院長 福田 護

〈医療機関名〉

横浜市立大学医学部一般外科	利野 靖
横浜市立民総合医療センター外科	石川 孝
昭和大学藤が丘病院	松宮 彰彦
横浜南共済病院	松川 博史
日本医科大学付属武蔵小杉病院	天神 敏博
聖マリアンナ医科大学病院	緒方 晴樹
藤沢市民病院	仲野 明
藤沢湘南台病院	田村 功
茅ヶ崎市立病院	小林 一博
北里大学病院	蔵並 勝
平塚共済病院	谷 和行
小田原市立病院	小山 隆史
山近記念総合病院	久保田光博
秦野赤十字病院	蓮尾 公篤
東海大学病院	徳田 裕
三浦市立病院	小澤 幸弘
大和市立病院	竹下 利夫
東海大学大磯病院	大谷 泰雄
伊勢原協同病院	飯尾 宏
平塚市民病院	金井 歳男
熱海病院	岩崎 博幸
海老名総合病院	内山喜一郎
津久井赤十字病院	西山保比古
東芝林間病院	竹中 晴幸
相模台病院	坂本いづみ
横浜旭中央病院	櫻井 修
横浜掖済会	高橋 利通
横浜市南部病院	池 秀之
湘南記念病院	土井 卓子
東名厚木病院	日野 浩司

(事務局 稲葉 稔明)

神奈川乳房画像研究会 神奈川乳房超音波画像研究会

本研究会は平成10年12月に発足し、マンモグラフィ・乳房超音波・乳房画像診断・病理診断に携る県下の診療放射線技師・臨床検査技師・医師とその検査を受ける立場である一般の方に至るまでを対象とし早期乳がん発見をするために画像診断力や精度管理の知識向上に役立つ情報の伝達や医療現場の情報など普及活動を行なっている。平成18年3月に発足した神奈川乳房超音波画像研究会も同様に広い範囲で活動を推進している。

代表世話人 加藤善廣
(川崎市立多摩病院)

平成22年度の活動状況

《第40回研究会・第17回超音波研究会》

開催日時：平成22年5月22日（土）

14：00～18：00

会場：鶴見大学会館 地下1階 メインホール

1. 「デジタルマンモグラフィの品質管理」
神奈川乳房画像研究会 石川光雄先生
2. 「超音波基礎シリーズ2 乳腺超音波の基礎」
東海大学医学部付属病院 小柳紀子先生
3. 「半導体式X線測定器」
トーレック株式会社 医療機器部 中沢洋先生

参加者：140名

《第41回研究会・第18回超音波研究会》

開催日時：平成22年11月27日（土）

14：00～18：00

会場：川崎市立川崎病院 7階 講堂

1. 「フォトンカウンティングテクノロジーによるマンモグラフィ」
キャノンマーケティングジャパン 藤田純子先生
2. 「乳腺超音波検査におけるフローイメージングの現状と今後の課題」
東京慈恵会医科大学附属第三病院
放射線部 松原馨先生
3. 「乳腺病理入門ーとことん病理を勉強しようー」
埼玉県立がんセンター 病理部
部長 黒住昌史先生

参加者：107名

《横浜市医師会主催ポジショニング講習会》

開催日時：平成23年1月30日（日）

8：30～17：30

会場：神奈川県予防医学協会

1. 「マンモグラフィの基礎」
2. 「臨床画像評価」
3. 「ポジショニング実習」
4. 「デジタルMMGの品質管理」

参加者：16名

世話人会開催

平成22年4月12日 19：00～21：00

平成22年9月6日 19：00～21：00

平成23年3月7日 19：00～21：00

於：神奈川県予防医学協会
(事務局 見本喜久子 金子祐子)

ピンクリボンかながわ

「ピンクリボンかながわ」は、乳がんの早期発見・早期治療をめざして、NPO法人乳房健康研究会と共に、乳がん検診の受診率向上と乳がんについての知識の普及・啓発を目的として、平成18年度から取組み5年目となる。

神奈川県から貸与されたマンモグラフィ検診車の活用を図り、行政・企業との連携が拡大し活発な活動を展開してきた。主な活動は、マンモグラフィ検診車の展示や、ピンクリボンブースで乳房模型を使い、しこりの触診体験や自己触診方法を説明している。

また、小規模の催しには、乳房模型の貸出しや自己触診方法が載ったリーフレットの提供による活動支援も行っている。

ピンクリボン事務局には、活動方法について市町村の保健師からの問合せも年々増えており、保健師さん達の積極的な活動も大きな力となり、地域住民の方達へ草の根運動として更に拡大している。

企業からも、社員の方の熱意により社内でピンクリボン研修会の開催や、ピンクリボンバッチを着けて啓発活動を行っている。

平成22年度は、県内市町村や企業等のイベントへ延べ30団体53日間、協力参加した。主たる活動として、5月5日、横浜バイスターズ専属チアチーム「diana」と共に横浜スタジアムをピンクのリボンで染めたり、9月25日、26日には、神奈川県、横浜市をはじめ関係団体と連携しイベントを行い、更に、神奈川県庁、横浜マリントワー、象の鼻パークのスクリーンパネルをピンク色のライトアップを行った。

役員

1. 代表 野末 悦子 (コスモス女性クリニック)
2. アドバイザー 青野 智子
3. 監事 2名 吉泉 英紀 (横浜市水道局)
高木富美子 (乳房健康研究会)
4. 事務局長 栗原 博 (神奈川県予防医学協会)
事務局員 7名

ボランティア登録95名(協会職員・協会OB・外部)
(事務局 野口 正枝)

神奈川県健康管理機関協議会

本協議会は、県内において企業等の健康管理支援業務を行う企業外健康管理機関が、より質の高いサービスを提供するため、健康管理全般に関する支援として、精度の向上、適正な事業の運営等、共通の諸問題を協議検討すると共に労働衛生行政へも積極的に協力していくことを目的として活動している。平成22年度の会員機関は15機関で年2回運営面の適正化と質的向上に関する事項の協議の場として、継続的に協議会を開催している。

平成22年度活動状況

第1回協議会（平成22年8月25日）

1. 神奈川労働局からの連絡事項
 - ・神奈川県下における労働衛生の現状
 - ・平成22年度労働衛生行政の重点
 - ・労働衛生関係法令の改正について～平成22年4月1日施行～
 - ・石綿健康管理手帳の交付条件
2. 講演
 テーマ：「職場における受動喫煙防止対策とメンタルヘルス対策」
 講師：北里大学 副学長 相澤 好治 先生
 (1) 職場における受動喫煙防止対策に関する検討会の目的及び検討事項
 (2) 受動喫煙の健康への影響、職場における喫煙対策の実態
 (3) 職場における受動喫煙防止対策の今後と課題
 (4) メンタルヘルス対策の経緯、背景、基本方針、施策の進め方
 (5) メンタルヘルス対策検討会の検討事項
3. 情報交換
 - ・経済状況の影響による受診状況の変化
 - ・胸部エックス線検査等の対象者見直しの影響
 - ・うつ病健診を踏まえたメンタルヘルス事業の活動状況
 - ・レントゲン機器のデジタル対応について

第2回協議会（平成23年2月28日）

1. 神奈川労働局からの連絡事項
 - ・今後の職場における安全衛生対策について
 - ・じん肺法に基づくじん肺管理区分決定に係る留意事項
 - ・「じん肺健康診断及びじん肺管理区分の決定におけるDR（FPD）写真及びCR写真の取扱い等について」の一部改正について
 - ・平成22年度業務上疾病による重大災害発生状況（平成23年2月24日現在）
2. 講演
 テーマ：「今後の産業保健活動」－安衛法改正について産業医が考えていること－
 講師：労働衛生コンサルタント事務所オークス 竹田 透先生
 (1) 最近の産業保健の課題
 (2) 過重労働による健康障害及び精神障害、職業性疾病、化学物質等による健康障害への対応
 (3) 産業保健活動、健康づくり、快適職場づくり対策
 (4) 受動喫煙対策
3. 情報交換
 - ・胸部エックス線検査の対象者見直しの影響
 - ・うつ病健診を踏まえたメンタルヘルス事業の活動状況
 - ・医師、看護師等のスタッフ確保

機関名

▲代表幹事 ●幹事

- ▲(財)神奈川県予防医学協会
- (財)神奈川県労働衛生福祉協会
- (財)ヘルス・サイエンス・センター
- (財)京浜保健衛生協会
- (財)結核予防会 神奈川県支部
- (財)全日本労働福祉協会
- (財)日本予防医学協会 東日本統括センター
- (財)労働衛生協会
- 独立行政法人 労働者健康福祉機構 関東労災病院 健康管理センター
- (財)労働科学研究所
- (医)社団 日健会 日健クリニック
- (医)社団 相和会
- (社)衛生文化協会 城西病院
- (財)豆葉地域医療センター
- 神奈川県厚生農業協同組合連合会 健康管理センター

※平成23年3月31日現在

(事務局 根本 克幸)

神奈川健康保持増進サービス機関等連絡会

神奈川健康保持増進サービス機関等連絡会は、神奈川県下で活動している中央労働災害防止協会認定（名簿登載機関）の健康保持増進サービス機関で組織され、神奈川労働局の指導の下に発足し自主的に運営されている。その目的としては、事業主の責務である労働者への健康づくり活動をより質の高いものにすべく、技術の向上、運営の適正化またサービスを提供することである。

近年の高年齢労働者の増加、急速な技術革新の進展等の社会経済情勢の変化、労働者の就業意識や働き方の変化、業務の質的变化等に伴い、定期健康診断の有所見率が増加傾向にあるとともに、仕事に関して強い不安やストレスを感じている労働者の割合が高い水準で推移している。

このような職場における労働者の心身の健康問題に対処するためには、心身両面の総合的な健康の保持増進を図ることが必要である。

THPはすべての労働者を対象とした心とからだの両面にわたる健康づくりであり、継続的かつ計画的に、労働者の健康の保持増進のための措置を実施することを目的としている。

神奈川健康保持増進サービス機関等連絡会は、より質の高いサービスの提供・労働者の健康増進に寄与する活動を展開していく。

〈平成23年度加入機関〉

(財)神奈川県労働衛生福祉協会

(医社)こうかん会

(財)神奈川県予防医学協会

(事務局 北見 護)

肺疾患検討会

昭和56年、1981年その頃は現在のように肺疾患について分類も豊富でなく、当然、医師の知識もそれなりに不十分であった頃に第一回が発足した。矢張り当時に於いて大きなテーマは肺癌、肺腫瘍であった。が、どの症例をとっても最終的に肺癌の診断を下す為には他の炎症性疾患も理解していなくてはならない。特に結核については肺癌に対立する重要な疾患と考えていたために広く肺疾患検討会という名称にして今日に至り30年目を迎えることになった。

今年度の第一回は回数節目と発足時の5月と一致するため特別講演として症例の呈示は行わなかった。

第135回 平成22年5月25日(火)

場所：中外製薬(神奈川県金港町)

中外製薬の新薬情報としてアバスタチンの肺癌適応拡大について、学術部の高橋浩二氏が紹介を行った。ついで特別講演は横浜市立大学大学院医学研究科生体制御・麻酔科准教授の倉橋清泰先生による「人工呼吸と肺障害」と題して2007年～2009年までのワシントン大学での研究をもとにARDSのような全身疾患を有する生体に高器量排気が肺傷害を悪化させることがあるなど、先生の研究の一端を披露して戴いた。(これは筆者にとって最大の関心事であり先生の留学前から是非とお願いしてあったが丁度、留学先での(Division of Pulmonary and Critical Care Medicine)仕事と一致したものである)

第136回 平成22年9月14日、国立病院機構横浜病院 呼吸器外科 坂本先生他

- 1) 右後縦隔に発生し食後の心窩部痛を主訴とするアミロイドーシス。
- 2) アスベスト歴のある70歳の右背部痛のホジキンリンパ腫(結節硬化型。胸膜原発)。
- 3) 20歳男性、左腹直筋の広汎な腫脹を主訴としてウステルマン吸虫症(サワガニを食べた後)。腸内→腹腔内→腹筋→腹腔の経路。
- 4) 70歳男性。胸部X-Pの異常陰影。腫瘍を考えるかBF生検で診断つかず。炎症性偽腫瘍(Organizing Pneumony)。
- 5) 60歳男性。腫瘍も考えられる左上葉のアスペルギルス症(切除)。
- 6) 内科 水川先生呈示。S4のConsolidationで気管支に沿った炎症像。B5の閉塞を示すアスペルギルス症。

第137回 平成22年11月16日

神奈川県立がんセンター 呼吸器外科 石川善啓、生駒陽一郎、名和公敏、伊藤宏之、坪井正博、中山治彦先生。

- 1) 55歳男性。47歳児右上葉肺癌で手術後8年2ヵ月後右中肺野に中葉の肺癌。
- 2) 48歳女性。ドック発見左上葉肺癌術後1年で左鎖骨上リンパ節再発。イレッサでCR継続。その後5年で左下肺野に肺癌出現し摘除。
- 3) 42歳女性。健診発見中葉肺癌切除。術後8年で健診で右下肺野に異常影。前回摘除時に腫瘍細胞が播種されていたようでStaplerの部分に再発していた。
- 4) 中葉肺癌手術後7年2ヵ月で再び異常影で右上葉切除。病理診断は抗酸菌性肉芽腫。
- 5) 皮膚腫瘍のフォローアップ中CTで左肺癌発見手術施行。その後フォローで3年後に右下肺野に結節影出現。前回手術の肺内転移と考える。

以上、肺癌根治手術例で術後何年迄フォローすべきかの問題提起である。サテライト医療施設としての責務が大きく取り上げられている。

第138回 平成23年2月22日

循環器呼吸器病センター 呼吸器外科 田尻先生以下

- 1) 71歳女性。子宮癌手術前検査で肺癌(Stage IV)を発見。胸肺内の扁平上皮癌(CYFRA4.1↑)。
- 2) 30歳女性。健診で左下野の異常影発見。MAC合併の肺分画癌。
- 3) 63歳女性。胸肺嚢胞で手術後大量の乳糜胸出現。外科的に乳糜管結紮術を施行+中心栄養。
- 4) 51歳女性。左下野の肺揚張影。摘出しSolitary Fibrous Tumor。悪性化の可能性ありとのこと。

(事務局 井出 研)

日本作業環境測定協会神奈川支部

日本作業環境測定協会神奈川支部は、昭和56年7月、神奈川並びに山梨の両県に所在する(社)日本作業環境測定協会会員により設立。現在、支部の会員は、自社1、機関28、指定1、測定士39、その他12の計81会員である。

神奈川支部は設立以来、作業環境測定士の資質向上と測定技術の精度向上、測定機関の業務改善並びに会員相互の親睦を目的として、種々の事業を展開してきた。

平成22年度は、作業環境測定推進大会を始めとして、各種の事業を行った。その主な内容は次の通りである。

会 議

- (1) 支部会議
 - ①総会1回
 - ②理事会3回
 - ③技術専門委員会8回
 - ④機関全体集会1回
- (2) 本部会議
 - ①支部長会議(22.7.29)

事 業

I. 作業環境測定推進大会(22.9.28)

- ①最近の労働衛生行政の動向
神奈川労働局労働衛生課長 福島 路子氏
- ②作業環境測定と化学物質管理
中災防労働検査センター 山田 憲一氏
- ③ノマテリアルの考え方・捕まえ方
日測協精度管理センター 芦田富美雄氏
- ④神奈川における化学物質管理の現状
神奈川県予防医学協会 芦田 敏文氏

II. 技術研修会

- (1) 第1回技術研修会(22.5.12)
～鉄鋼業における産業医活動～
J F E スチール(株)東日本製鉄所
産業医 村上 太三氏
- (2) 第2回技術研修会(23.2.4)
工場見学会：J F E スチール(株)東日本製鉄所
- (3) 第3回技術研修会(23.3.3)
 - ①最近の法令改正(衛生関係)について
神奈川労働局労働衛生専門官 長久保 茂氏
 - ②モデル様式の書き方・見方について
神奈川県労働衛生福祉協会 高野 広正氏
山梨労働衛生センター 望月 速人氏
菱重エステート 竹内猪佐夫氏
 - ③サンプリングポンプ粉じん計の保守点検整備について
日測協精度管理センター 鈴木 治彦氏

理事・技術専門委員名簿

	理 事	技術専門委員
支 部 長	佐藤 明	灰塚 正隆(オオスミ)
副支部長	井澤 方宏	芦田 敏文(予防医学協会)
"	吉留 浩二	佐藤 研二(住友重機械)
理 事	蒔田 道則	竹平 知義(労働衛生福祉協会)
"	仙石 久司	竹内猪佐夫(菱重エステート)
監 事	望月 明彦	望月 速人(山梨労働センター)
"	三井 浩史	星野 健二(J F E スチール)
行 政	斎藤 晃彦	長久保 茂(神奈川労働局)
		(事務局 芦田 敏文)

神奈川県学校・腎疾患管理研究会

昭和50年に発足し35年目。各地区医師会・自治体・大学医学部・病院・学校・検診機関が相互に連携し地道な腎疾患対策を行い児童・生徒の健康に寄与すべく事業を展開している。

I 調査研究事業

1. 小田原市における腎疾患管理で卒業等により、管理解除となった者に対する追跡調査のまとめ。
小田原市学校検尿卒後検診「27年間のまとめ」の発刊
責任者 藤原 芳人（本会幹事・横浜市医師会）
竹中 道子
（本会幹事・神奈川県予防医学協会）

2. 調査研究

- ①学校現場と腎疾患医療分野の連携を図るため、小田原市学校保健説明会にて講演と質疑を実施。

責任者 生駒 雅昭
（本会幹事・川崎市立多摩病院小児科部長）
日 程 平成23年2月23日（水）
会 場 小田原市役所
参 加 小田原市内小・中36校養護教諭

- ②各地区の判定委員会の現状と問題点の把握。

責任者 高橋 英彦
（本会幹事・こども医療センター 腎臓内科）
日 程 平成23年2月26日
会 場 松村ガーデンホール
参 加 12地区担当 8名
・各地区現状報告（内科医との連携）
・学校腎臓病検診マニュアルの検討

II 運営委員会

責任者 新村 文男
（本会会長・東海大学病院医学部小児科准教授）
日 程 平成22年5月28日
会 場 松村ガーデンホール
参 加 12名

III 総会および研究会他

- ・役員会 9月11日（土） 14：00－
松村ガーデンホール
 - ・総 会 9月11日（土） 15：00－
松村ガーデンホール
 - ・定例研究会 9月11日（土） 15：30－
松村ガーデンホール
- テーマ 「小児期発症のIgA腎症の成人後の臨床経過」
講 師 虎ノ門病院 腎センター 諏訪部達也 先生
参加人数 33名

IV 医師部会研究会

平成23年2月26日（土） 15：00－
松村ガーデンホール

テーマ① 「小児尿路感染症の画像診断の進め方、V
CUGは全例必要？」
講 師 武蔵野赤十字病院 小児科 下田 益弘 先生

テーマ② 「硝子円柱の臨床的意義」
講 師 東京女子医大病院 第4内科 小川 哲也 先生
参加人数 32名

V 知識普及活動

研究会機関誌「じん」 31・32合併号の発刊(2,000部)
ホームページ活用し、県下各地域の学校保健関係者に普及活動を行なう。

(URL <http://www.shouni-jin.jp/>)

(事務局 佐藤 光宣)

禁煙、分煙活動を推進する神奈川県会議

平成11年11月5日設立発足した本会は着実な活動を展開し、県内における禁煙・分煙に関する活動の指導的役割を果たしてきている。

協会は設立時より本会の事務局を担当している。

平成15年「健康増進法」において受動喫煙防止が謳われ、神奈川県では「かながわ健康プラン21」、「がんへの挑戦・10ヵ年戦略」によるタバコ対策につづき、「神奈川県公共施設における受動喫煙防止条例」が平成22年4月から施行された。本会も条例成立とその効果的な運用に向けて積極的に活動を展開してきた。

22年度活動内容

I. 会議

- (1) 総会 6月5日
- (2) 理事会 5回

II. 事業

1. 講演および情報提供 6月5日
2. 港南 禁煙・分煙をすすめる会
1月22日
3. 禁煙・防煙講演会、禁煙セミナー
委託事業として随時開催
地域、学校・職域、医療関係への講師派遣
122回
4. 関連会議への協力・参加 6回
5. 平成22年度かながわ卒煙塾 講師協力
6. イベントへの参加
(1) カミオ商店街「禁煙キャンペーン」8月2日
(2) かながわ健康づくり記念フェア11月23日
7. 団体等への要望など
神奈川県知事等6回
8. メディアなどへの協力
9. メーリングリスト（NL）の運営
10. ホームページの運営

役員（理事会）の構成（23年6月4日現在）

会 長 中山脩郎（神奈川県内科医学会名誉会長）
副会長 廣瀬好文（神奈川県立循環器呼吸器病センター所長）

” 浅川章光（神奈川県歯科医師会副会長）

” 大野秀利（神奈川県薬剤師会常務理事）

会計、監事、理事 30名（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、マスコミ、産業、教育等）

(事務局 栗原 博)

スモークフリー推進かながわ基金

受動喫煙による健康への悪影響から県民の健康を守るための公共的空間における新たなルールとして、「神奈川県公共施設における受動喫煙防止条例」が制定され、平成22年4月1日から施行された。

受動喫煙防止を広く浸透させ、自らの意思で受動喫煙を避けることができる環境の整備を促進するためには、民間と行政が、相互に、理解と協力のもとに対策を推進することが重要であり、これを継続的、安定的に実施するため、県民、法人、全国の賛同者からの寄付金を原資とした「スモークフリー推進かながわ基金」が設立された。

これは、民間と行政の協働による受動喫煙防止対策の一層の推進と、「スモークフリー」を神奈川県から広く発信し、社会全体のルールとして定着するための各種事業を実施することを目的としている。

その呼びかけ人の総意により、当協会がその事務局を引き受けている。

（スモークフリーとは“煙から開放されて自由になる”という意味です。）

設立呼びかけ人

社団法人神奈川県医師会
社団法人神奈川県歯科医師会
社団法人神奈川県薬剤師会
社団法人神奈川県病院協会
社団法人神奈川県看護協会
神奈川県

22年度活動内容

事業協力

1. 受動喫煙防止県民フォーラム 2月6日
2. " " ポスター表彰式 11月27日

役員（運営委員）の構成（平成23年2月現在）

委員長 澤井博司（神奈川県医師会副会長）
委員 西野一紘（神奈川県歯科医師会副会長）
" 芳村周平（神奈川県薬剤師会専務理事）
" 吉田勝明（神奈川県病院協会副会長）
" 天野三紀子（神奈川県看護協会常務理事）
" 中澤明紀（神奈川県保健福祉局保健医療部長）
(事務局 栗原 博)

神奈川学校保健研究会

県内の養護教諭ら、学校保健関係者が自主的に研修する場として昭和43年に発足。以来、毎月1回の月例会、夏期講習会を実施している。

- 1、月例会 日時、テーマ、講師、参加人数
4月17日「みんなちがって、みんないい」座間キャラバン隊・8人
5月22日「思春期における性同一性障害の諸問題」針間克己・はりまメンタルクリニック院長・13人
6月26日「子どもたちが笑顔で過ごすために養護教諭としてできること」丹野節子・「きらっと」たんの個別支援教室主宰・9人
7月24日「保健室における児童対応と養護教諭のストレスマネジメント」岩泉瑠實子・臨床心理士、鍼灸師・13人
9月11日「ミニ事例検討会」小見祐子・柿の木坂相談室、臨床心理士・9人
10月30日「心理教育的援助によるコミュニケーション・スキル」平野英雄・学校法人新藤学園大神美里幼稚園園長、社団法人日本心理学会認定心理士・10人
11月20日「ケースメソッド」竹鼻ゆかり・東京学芸大学芸術スポーツ科学系養護教育講座准教授・8人
12月11日「臨床動作法ワークショップ」石川勇一・相模女子大学臨床心理学教授・12人

平成23年

- 1月29日「不登校の背景にある“イチロー的”ST気質の理解と対応」森薫・屋久島おおぞら高校副校長、学校心理士、KTC総合教育研究所所長・18人
2月26日「みつめよう子どものこころ」宮田雄吾・医療法人カメラア横浜カメラアホスピタル院長、精神科医・18人
3月26日 施設見学会（震災の影響により中止）

2、夏期講習会

日 時：平成22年8月9日～11日

テーマ：「自己理解と他者理解の心とこころの響きを求めて」～支援・導入の方法を広げる～

参加者数（延べ）：309人

- 9日「情報化社会の子ども—情報化がもたらす負の側面—」牟田武生・NPO法人教育研究所所長、「発達障害を理解する」金井剛・横浜中央児童相談所、児童精神科医師
10日「保健室とカウンセリング」藤井靖・早稲田大学人間科学学術院助手、臨床心理士
11日「保健室でできるリラクゼーション」大多和二郎・横浜心理臨床オフィス主宰、臨床心理士

会員状況

小学校9人、中学校11人、高校・短大12人、特別支援学校・保育園・ボランティア1人、その他18人、計51人
役員（順不同、敬称略、平成23年5月31日現在）

名誉会長 高田 和子

会長 山口 京子

副会長 藤沢 恵子（横浜市立南舞岡小学校）

幹事 佐藤まゆみ（神奈川県立川崎高校）

鈴木 晴美（横浜市立浦島小学校）

木村千恵子（川崎市立千代ヶ丘小学校）

平山 京子（北鎌倉女子学園）

菊池 幸江（川崎市立桜本中学校）

大木美恵子（前川崎市立南菅中学校）

後藤 和泉（秦野市立本町中学校）

監事 中川 優子（藤沢市立藤が丘中学校）

工平 きん（横浜市立勝田小学校）

(事務局 船崎 隆文)